

神経内科

■川田 純也

日本神経学会専門医・指導医,
日本内科学会認定総合内科専門医,
日本臨床神経生理学会認定医,
(脳波部門・筋電図部門)
日本認知症学会専門医・指導医,
日本頭痛学会専門医,
日本脳卒中学会専門医,
日本医師会認定産業医

展望

当院の神経内科は、急性並びに慢性を含む脳血管障害と脳神経外科診療を除く、その他の神経疾患を診療領域としています。担当医師一人で行っている関係上、基本的には外来とコンサルト業務を中心にしており、入院は総合内科との連携で行っています。

MRIなどの画像診断や脳波・筋電図などの電気生理検査、筋生検、神経生検などの補助的検査はもちろんですが、その特殊性から、病歴聴取、理学所見を特に重視しています。その中で、どの所見が特異的で、どのように診断を進めていけば、より効率的かを確認しながら診療しています。診療内容は、パーキンソン病並びにその関連疾患と不随意運動を含む運動障害疾患(movement disorders)、Guillain-Barre症候群や多発性硬化症などの神経免疫疾患、てんかん、ALS、認知症などです。そして、もう一つの重要な業務は当院の根幹である救急部門（ER）を大きく支える総合内科で働く若い医師に対して、モチベーションを高めながら、かつ神経疾患の診療レベルを高めることです。内科学会認定医や専門医の目指す病歴でさえ、電子カルテの時代の今は、コピー&ペーストで飾った病歴が多いことから、せめて当院の研修医は、そのような見せかけだけの臨床医にならな

いように強く願っています。

加えて神経疾患の治験も可能な限り進めています。より専門化、複雑化する中で、今後の本邦の医療システムを考え、特に、総合内科や救命救急科などの神経疾患を専門としない医師が、いかに短時間で効率よく、神経疾患を正しく診断して治療ができるかを目指しています。

当院 神経内科は、総合内科とともに日本神経学会専門医准教育施設になっていることに加え、当科単独で日本認知症学会の教育施設となっています。これからの日本では、患者数400万人以上となった認知症の理解なくしては日常の診療が行えなくなることは確実で、診断、そして治療へのアプローチ、治験、加えて鎌倉並びに逗葉医師会の診療機関や介護施設との連携を行っていきます。